



～地域とともにある学校をめざして～

鯨コミ

R4 CS通信No.15 R4.12.8



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

令和4年度第2回CSタウンミーティングの内容について報告します

11月27日(日)、テーマを「鯨ヶ沢町の学校をどんな学校にしたいのか」として、今年度2回目のCSタウンミーティングが開催されました。

当日は、学校運営協議会委員、教育委員、社会教育委員、学校教職員、PTA、保育園職員、町内会等24名の参加があり、活発な意見交換がなされました。

以下、流れに沿って報告いたします。

(1) これまでの経緯とタウンミーティングの趣旨

昨年10月のCS関係者意見交換会では、小学校の統合や小中一貫教育も視野に入れて考えていかなければならないという意見が多くありました。そこで、学校運営協議会では、引き続き、「鯨ヶ沢町の学校をどんな学校にしたいのか」「子供たちをどんな子供に育てたいのか」を地域の様々な立場の方々と話し合っていくことにしました。

(2) 学校運営協議会会長あいさつ

少子化問題、ICT教育、外国語教育等学校教育を取り巻く環境の変化が著しくなっております。本日は、教育環境の整備について、たくさんのご意見をいただきたいと思っております。



(3) 三戸町の小中一貫教育の状況について(説明)

小中一貫教育を実施するに至った経緯や小中一貫教育を実施しての成果と課題について、社会教育課担当より報告がありました。施設・設備の充実や特色ある教育内容も紹介されました。



(4) 三戸学園視察の感想(視察参加者より)

- 小中一貫教育となったときに、不登校は解消できるのか、疑問に思いました。今、早急に行うのは、校舎の補修や移転だと思えます。
- 立派な施設・設備は必要ですが、町でできることを考えていかなければならないと思えます。あいさつができる、気軽に学校行事に参加できる、地域ぐるみで子どもたちを見守る、そんな学校であってほしいと思えます。
- 中学校の一番の課題は、全校生徒の1割近くの人数が、不登校又は欠席が多い、教室に入れないことです。小中一貫教育では、発達段階に応じた教育課程により、中1ギャップが緩和されるので、メリットは大きいと思えます。
- 児童生徒は仲が良く、中学生が穏やかに生活しているというお話を聞きました。同じ建物の中で、小学生と中学生が、そして小中の先生方が行き来できるのが利点だと思えました。



(5)出席者の意見から

- 自然災害に対して建物が耐えられるのか、子どもたちがどうなるのか、安全面で不安です。不登校については、学校の先生だけでは解決できないのは明らかです。学校支援ボランティアについては、町の人が学校に寄り添い、「どんなことに困っているのか」「私たちにできることは何か。」と発信していかなければなりません。



- 鱒ヶ沢高校がゴルフやドローンなどを行っているので、小中学校の子どもたちにもそういう場を提供し、魅力ある取り組みをPRしていけば良いと思います。
- 小学校の時、中学校のお兄さんに付いて遊び歩くのが凄く楽しかったです。そういうことが自然とできた時代でした。今は無理ですね。それが小中一貫になると簡単にできるのかなあと思いました。また、小中一緒に地域課題を解決するために、やりやすいのかなと思います。学校が1つで学校運営協議会が1つになるわけですから、地域の方が動きやすいですよ。



- まずできることは、小・中学校は、今、小中連携に一生懸命力を入れていますが、それを更に強化して、学習や生活のルール、社会規範、善悪の判断、そういうことをしっかり身に付けさせて、それを家庭に発信しながら教育を進めていくのが良いのではないかと思います。



- あいさつについては、目を見て自分からという話がありましたが、これは地域の住民がまずやらないといけないと思います。元々は家庭の問題であって、家庭でしっかり「あいさつするんだよ」という風になっていくのですが、まず地域の人たちがあいさつしている姿を子どもに見せることをしなければいけません。



- 三戸町の立志科の話がすごく興味深くて、自分の町を教えてもらって自分の町に詳しくなるということで、子どもたちが自分の町に愛着を持てれば、立志科で学んだ子どもたちが1人でも自分の町に残るといような選択をする子も出てくるのかなと思いました。

(6)教育長あいさつ

- CS 導入の1つの理由は、子どもたちをきっかけにして地域づくりをしたいということです。地域の人と学校と関わる中で、今日はこんな面白いことがあったよとか、今度はあなたも一緒に行かないかということで、どんどんその輪が広がっていくと地域のつながりができていくのではないかと思います。

CS の一番の目標は、町の人も学校もこんな子どもにしたい、こんな学校にしたいという共通の目標を立てていくという、正に一貫教育だと思います。今日はありがとうございました。また次回、よろしくお願いいたします。